

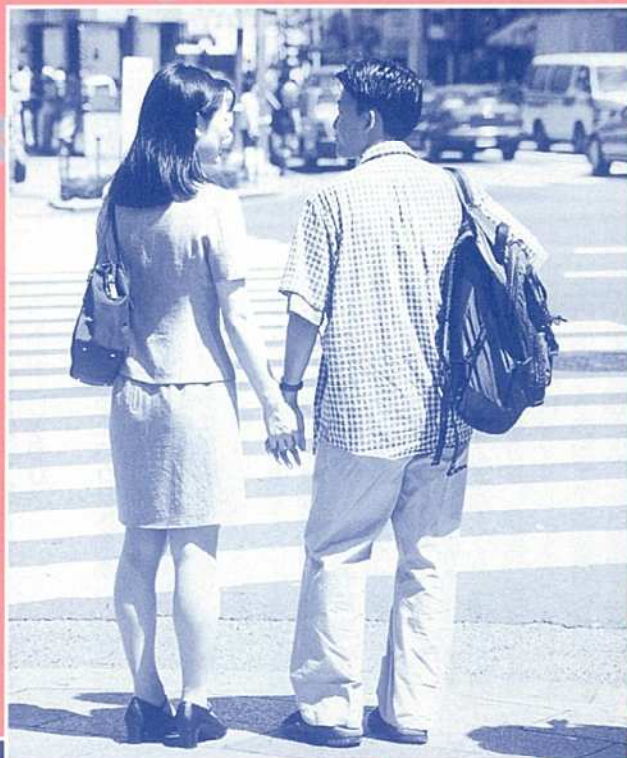
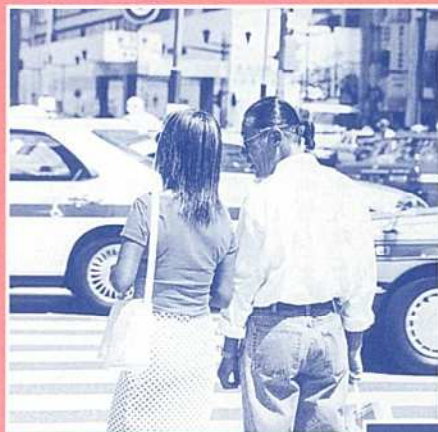
Azalea

2000.9.29

NO.24

特集

ドメスティック・バイオレンスを考える



北区女性センター「アゼリアプラネット」利用のご案内

男女共同参画の推進と女性問題に関する学習及び女性相互の交流の機会と場を提供するために設置された施設です。

施設の内容

- ◎学習室・料理室・和室（有料）
男女共同参画を推進することを目的とした団体が利用できます。（団体登録の要件有）
- ◎交流コーナー（無料）
情報交換や出会いの場として気軽に利用できます。
- ◎フーキングルーム
登録団体が利用できます。
- ◎情報コーナー
女性問題に関する図書・行政資料・雑誌・ビデオなどの閲覧、貸出を行います。

◇利用の申込み……利用日の2ヵ月前の日の属する月の初日から利用日の前日までに使用申請書を提出し使用料を納付してください。
※受付開始日の申込みは、午前9時30分までに来館してください。（以降は随時受け付け）。

問い合わせ先……TEL (03) 3913-0161・0162
FAX (03) 3913-0081



ドメスティック・バイオレンスを考える

桐朋学園大学講師
メンタルサービスセンター代表
くさやなぎ かずゆき
草柳 和之

ドメスティック・バイオレンス (Domestic Violence/DV)。「夫や恋人など親密な関係の男性から女性への暴力」を意味する言葉です。新聞やテレビなどで取り上げられることが多くなってきました。「二部のケースだけではないの?」と思われるかもしれませんが、**も、実態は深刻なようです。**
今回は被害者の女性だけでなく、日本で初めて男性加害者への包括的な暴力克服プログラムに取り組んでいらっしゃる草柳和之先生をお訪ねし、お話をうかがいました。

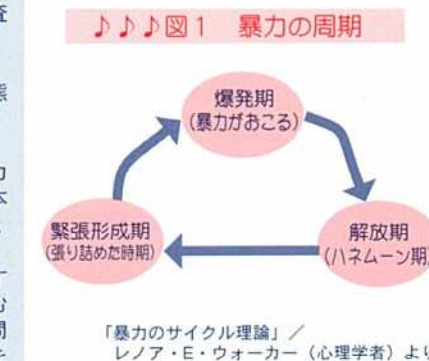


プロフィール 桐朋学園大学講師。メンタルサービスセンター代表。日本で初めてドメスティック・バイオレンスの男性加害者の専門相談を開始し、その自助グループの発足に尽力。女性誌、健康誌などに記事や論文を執筆、TV出演と多彩な活動。著書に『標準音楽療法入門』/春秋社、『アエラムック恋愛学のすすめ』/朝日新聞社など。

ドメスティック・バイオレンスとは?
ドメスティック・バイオレンスについてお尋ねします。
直訳すると「家庭内暴力」という意味です。現在は夫・恋人などの親密な関係にある男性が、女性に与える暴力という意味で使われています。
暴力にはどのようなパターンがあるのでしょうか?

殴る・蹴るといった身体的暴力の他に、言葉や性的な行為を強要する性的暴力、物の破壊、経済的暴力などがあります。このようにさまざまな形があり、複数の暴力が行われるケースが多いのです。DVに対する取り組みは、1970年代アメリカの女性解放運動からおこったレイプなどの被害者の救済や、男性からの暴力の根絶運動が端緒となっています。
暴力を振るう男性は穏やかな人物として通っていることが多く、暴力が向かう対象の大部分は、親密な関係です。その行動にはサイクルがあり、激しい暴力を振るう時期と、配慮ある優しい時期が交互に起こっています(暴力のサイクル理論)。

1998年度の都の調査によれば、3人に1人が暴力を受けた経験があるという結果が出ています。被害は増えているのでしょうか?
確かに相談件数は増えています。暴力行為は突然出てきたわけではなく昔からあったのですが、表面化することが少なかったのです。親密な男女の間で起こるため、個人的な問題とみなさ



「暴力のサイクル理論」/レノア・E・ウォーカー (心理学者) より

♪♪♪表1 各国の取り組み

イギリス	1976年 「DV及び婚姻関係裁判法」制定
アメリカ	1984年 「家庭内暴力防止法」制定 1994年 「女性に対する暴力法」制定
韓国	1994年 「性暴力特例法」制定 1997年 「家庭内暴力犯罪の処罰などに関する特例法」制定
台湾	1999年 「家庭暴力防止法」制定
日本	1998年 東京都が全国に先駆けてDVに関する調査を実施 1999年9~10月 総理府が全国レベルでの初の実態調査実施 2000年4月 男女共同参画審議会女性に対する暴力部会が「女性に対する暴力に関する基本的方策についての中間取りまとめ」発表。 2000年7月 同審議会が「女性に対する暴力に関する基本的方策について」答申。DVを含む女性に対する暴力を「社会的・構造的な問題」と位置付け、政府に新たな法整備を含めた早急な対策の検討を求めた。

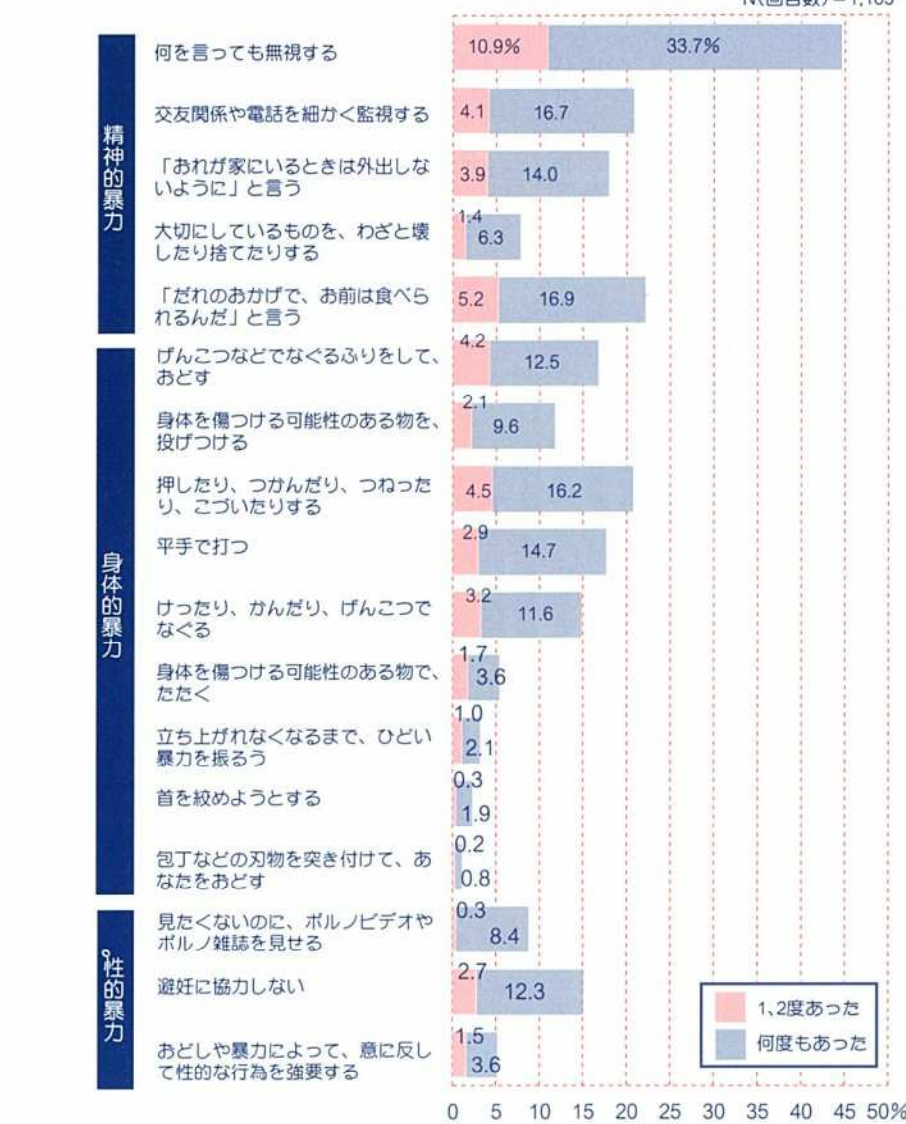
れ、近年になってようやく社会現象として取り上げられるようになってきました。
1985年に日本で初めて民間シェルターが誕生しました。この問題は古くから新しい問題です。1993年に採択された国連の「女性に対する暴力撤廃に関する宣言」以降、この問題は大きくクローズアップされています。1995年の第4回世界女性会議でも、女性に対する暴力が重要課題のひとつとして正式に取り上げられました。

暴力の根底には何があり、暴力を振るう男性(以下DV男性)はどのようなことを考えているのですか?
DV男性のほとんどは社会的にも活躍していて、人あたりのよい方です。しかしそのように一見健康に思える人が家に帰って暴力的であるというのは、決して精神的健康度が高いとは言えません。非常に多くのDV男性は、「お前ほど配慮のない人間はいない」「本当にデキの悪いヤツ」等と妻・恋人を徹底

して罵倒しています。考えてみると心からパートナーがイヤならば別れる方が自然です。しかし相手からの別れ話には頑迷に拒否するのです。これはDV男性が虐待的な相手が必要としている証拠なのです。虐待的な関係を親密に支えられているのです。
DV男性の中には、子ども時代に虐待やひどいいじめを受けたなど、さまざまな原因で本来あるべき自分が大切に扱われる経験を受けられず、自己評

価が低くなり内面の空虚を抱えて生きる方が多いのです。そして力を持つこと、優位に立つこと、という男らしさの価値(ジェンダー)によって自分を守り、内面の空虚を支えようとする。それがおびやかされたときに、暴力という力によって自分の価値を回復しようとしています。しかし暴力によって本当に満たされるものではなく、繰り返されるのです。
DVは女性に対する差別意識として現れますが、背景にあるのは「嗜癖

♪♪♪図2 夫やパートナーからの暴力の経験の有無 (N(回答数)=1,183)



注:「まったくない」「無回答」については図示していない
(出典)「女性に対する暴力」調査報告書 東京都生活文化局(平成10年)

♪♪♪北区女性センターにはこんな本があります

題名	著者	出版社	発行年
「誰にも言えない夫の暴力」	鈴木隆文・石川結貴	本の時遊社	1999年
「バタドゥーマン」	レノア・E・ウォーカー	金剛出版	1997年
「心を殺された私」	緑河実沙	河出書房	1998年
「家族の現状」	河野貴代美	薪水社	1998年
「殴る夫逃げられない妻」	吉廣紀代子	青木書店	1997年
「セクシャル・ハラスメント」一女性たちの告発	宮淑子	教育史料出版会	1989年
「セクハラ110番」	三井マリ子	集英社	1994年
「セクシャル・ハラスメント」一新版	福島瑞穂他	有斐閣	1991年
「オフィスにもこまれる性」	杉井静子・村瀬幸浩	大月書店	1990年
「セクシャル・アブユース」	山口遼子	サンドケー出版局	1994年
「子供をたたくっていけないこと?」		主婦の友社	2000年
「セクハラ事件の主役たち」	金子雅臣	築地書館	1992年
「ドメスティック・バイオレンス」		調査研究会有斐閣	1998年
「夫(恋人)からの暴力」		調査研究会有斐閣	1998年
「ドメスティック・バイオレンスを乗り越えて」	鈴木隆文・後藤麻里	日本評論社	1999年
「セクシャル・ハラスメントのない世界へ」	東京女性財団編大谷恭子他	有斐閣	2000年
「女性に対する暴力」	森田ゆり他	松香堂書店	1998年

男女共同

NOW 参画



あなたは自分のことを知っていますか？ あなたのこころとことばと行動はかけ離れていませんか？ 「ひだまり」の皆さんはボランティアセンターでのセミナー受講後、学んだことを社会活動につなげたいという真摯な思いから「地域の中の心の交流」を目的とした活動を行っています。

ひだまり

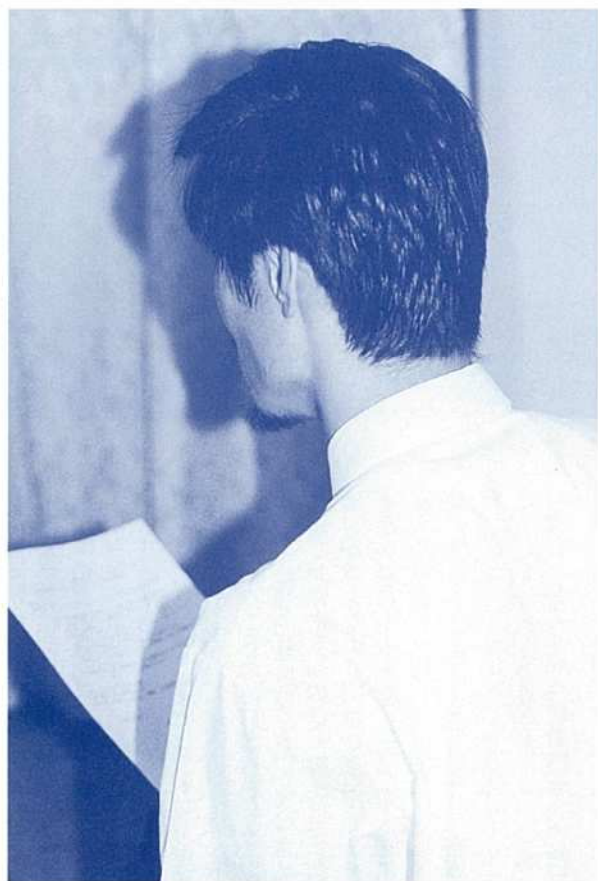
米本昌子さん (代表) 中村キク代さん
平岡京子さん 白浜香代美さん
増田澄子さん 横尾ハツエさん

まず、自己紹介をお願いします。
ひだまり（以下Hと略）…代表の米本です。二児の母です。女性センターのセミナー受講をきっかけにカウンセリングの自己研鑽に努めてきました。学んだことをこれから社会に向けて生かしていきたいと思えます。書記をしている横尾です。ボランティアセンターでの講座の後、自主

グループに加わって活動を続けています。
中村です。自分に心のゆとりがなければ、家族にも人にも優しくできないし、お話しも聞けないと思えます。
平岡です。人の話を聞くのがどんなに大事かがわかりました。
増田です。母の介護で皆さんに助けられました。その経験があつてか、お年寄り向き合える自分になりました。
白浜です。これから何らかの形で学習してきたことを返していきたいと思っています。
現在の活動についてお話し下さい。
H…最初は子育て支援事業に対するサポートを、と思っていました。思春期の子どもを持つ親の勉強会をきっかけに活動が広がりました。保健所主催の講演会もお手伝いしました。勉強会ではグループカウンセリング、フィードバックの訓練をしたり、子どもに伝えきれない思い、子どもとのやりとりのロールプレイなどをします。嫁として母として夫を送り出した後、家庭は私が守って行かなくては、という気負いが皆にありました。子どもの問題で来ているはずが結局は自分自身の問題だと気づき、自分に焦点を当ててみるようになるのです。
活動を続けてきて今一番気になっていることは何ですか？
H…この活動を私たちだけで続けていこうとは思っていません。地域で思いをつなぎたいという気持ちです。

この活動を続けてきて嬉しかったことは？
H…社会参加です。相手のためでありながら自分のためでもある、ということが支えになります。自分に自信がつけました。一緒に成長している希望の会です。それが嬉しいです。
ご近所では話せないこともこの場では何の飾りもなく話せます。自分自身を出せるのです。
夫が変わったことです。カウンセリングを受ける動機が、夫を変えたということでしたので。
外でもカウンセリングを勉強したことはありましたが、ここでの勉強を通して、今までの自分の言動に納得できました。夫に対しても自由にものが言えるようになりました。夫も変わってきたように思います。
私は夫をパートナーと思っていなかった時期がありました。私は家庭で子どもの面倒をみて、稼ぐのはあちら、使うのは私という感じでした。自分の価値観に気づき、お互いが理解しあう平らな関係の中での人間同士になれたことが良かったと思います。自分に劣等感があつて、当時は相

ひだまり
〒114-0032
北区中十条3-35-24
TEL&FAX
03-3907-3354
事務局 米本昌子さん
毎月第1土曜日：思春期学習会
毎月第2火曜日：会員による学習会、ボランティア活動を行っています。



の病理です。「嗜癖」とは心身を損なう習慣的行動で、それが自分や周囲に害があるとわかって止められない行動です。酒・ギャンブル・過食等の嗜癖のひとつがDVなのです。嗜癖の背景には必ず内面の空虚感が伴っています。DVは「性格の問題」ではなく治療が必要な問題で、嗜癖の専門アプローチの応用で解決が可能なのです。
「男らしさ」を主張する意識から自由になる
暴力をなくすには男性に対してどのような働きかけが必要ですか？

要です。また、暴力は自分の努力で止まるものではなく、専門的プログラムの受講が不可欠です。
先生の暴力克服プログラムはどのような方法なのでしょう？
1997年より実践を開始し、現在は3つのプログラムに発展しています。ひとつは専門相談。これは個々の事情や問題にきめ細かく対応できます。2つ目は自助グループ活動。これは同じ立場の男性が集いながら、自らの課題に立ち向かう力を活性化することができ、3つ目の暴力克服ワークショップは、心理劇などの手法を活用しながら、暴力の根を断つためのグループワークです。
男性は妻や子どもに与えてきた「痛み」を覚えることによって、自らの暴力克服に向かい合おうという気力が生まれてくるのです。

暴力を個人的な問題としてではなく、社会の問題として捉えていかないと解決が見られないのではないのでしょうか。
暴力を振るわれる妻や恋人は度重なる暴力によって自信を失い、自分を能力のない人間、ダメな人間だと思込んでしまうのです。かたやDV男性は
最後に、男女でどのような関係を築いていけば暴力はなくなっていくのでしょうか？
暴力を個人的な問題としてではなく、社会の問題として捉えていかないと解決が見られないのではないのでしょうか。
暴力を振るわれる妻や恋人は度重なる暴力によって自信を失い、自分を能力のない人間、ダメな人間だと思込んでしまうのです。かたやDV男性は

- 相談機関
- ◆北区女性センター（アゼリアプラネット）
心の相談（女性カウンセラー） ☎03-3913-0161
水 15:00~19:00 金 13:00~17:00
法律相談（女性弁護士） ☎03-3913-0161
毎月第1土 9:30~12:30
 - ◆北区生活福祉課婦人相談
☎03-3908-1144 月~金 9:00~17:00
 - ◆東京都女性相談センター
☎03-5261-3110 月~金 9:00~20:00
 - ◆東京ウイメンズプラザ
☎03-5467-2455 月~金 10:00~17:00
(日祝日は16:30まで)
 - ◆犯罪被害者ホットライン（警視庁）
☎03-3597-7830 月~金 8:30~17:15
 - ◆女性の人権ホットライン
☎03-3214-6698 月~金 9:00~17:00
- 男性専門相談、暴力克服プログラムについては
◆メンタルサービスセンター
☎03-3993-6147 月~土 10:00~19:00

草柳先生のお話が聞けます！
10/21（土）、午後1時30分～3時30分「恋人や夫婦間の暴力を考える」と題し、女性大学公開講座で草柳先生が講演します。場所は女性センターです。どうぞご参加下さい。

手が悪いと思う自分がいました。私自身の問題もあつたことがわかって、気持ちも軽くなりました。
自分が元気でいなければ人にも優しくできないと思えます。
これからどんな活動をしていきたいと思いますか？
H…他のグループとのネットワークも大切だと考えています。違った人たち同士が認めあつて、活動をつなぎ手を組めれば、多様な活動ができるようになるでしょう。気持ちだけでは限界があります。しっかりと自分を持って活動していきたいです。
カウンセリングを学ぶと、相手だけではなく、自分自身のこともわかるようになります。これからは若い人たちがお年寄りなど、それぞれ違った生き方も認めあえる地域づくりをめざして活動を進めたいと、謙虚にお話し下さいました。柔らかい言葉と笑顔が流れる心地よい時間でした。

自分には問題がないと考えていることが多いのです。近い将来DV関連法を成立させ、社会の中に暴力を必要としないシステムを構築する活動が重要だと思えます。
かつての「愛情表現としての暴力」という思い込みや幻想を捨て、お互いに尊重しあえる関係を築き、対等に向き合う生活を創ることです。
私たちはお互いの立場や生き方を理解しつつ、パートナーシップを築いていくという新たな文化を創り上げる時期にきているのです。
公的な機関と民間の機関がそれぞれ持っている機能を活かしながら、トータルに女性の自立をサポートするシステムを構築することも目指さなければなりません。
長時間ありがとうございました。

第5期北区アゼリアプラン推進区民会議の委員を紹介します

北区では、男女共同参画社会をめざす行動計画「北区アゼリアプラン」をより効果的に推進させるために、平成3年にアゼリアプラン推進区民会議を設けました。

今年5期目に入りました。

第5期の委員として次の12名の方が委嘱され、第1回のアゼリアプラン推進区民会議が、7月18日に開催されました。会議では、現行の北区アゼリアプランの改定に向けて、新たに盛り込むべき内容について、幅広く検討をお願いします。

第5期北区アゼリアプラン推進区民会議委員

大谷恭子（会長） 山田昌弘（副会長）

西郷泰之 結城美恵子 鶴田敦子

木村芙紗子 富田順子 橋本弥寿子

田辺恵一郎 富田好明 鈴木秀夫

西島昭 （敬称略）

会議は傍聴もできますので、男女共同参画室までお問合せください。

書籍紹介 『殴られる妻たち』

本書を読み進めていく中で、私は身震いを覚えた。何ともやりきれない怒りと恐怖に……。

妻のささいなことをきっかけに、卑劣な暴力を繰り返す夫。その夫の暴力に怯える生活を送らなければならない妻、そして子どもたち。夫婦、家庭という、ある意味「隔離」された関係、場で起こる怖さ。逃げようと思えば逃げられたはずなのに、暴力が、彼女を身体的、精神的に傷つけ、逃げる気力さえも奪ってしまう。それでも残りの気力を振り絞り、「シェルター」へ



殴られる妻たち
安宅 左知子著
洋泉社新書 780円+税



と逃げる事ができた二人の妻。逃げたはずなのに戻ってきてしまい、やがて殺されてしまった一人の妻。本書はこの三人の妻のDV（ドメスティック・バイオレンス）の実態と、その後の彼女たちの人生を著者の怒りをこめて描いた力作である。

DVに悩む女性はもちろん、過酷かもしれないが、男性にはぜひ読んでもらいたい本である。彼女らが訴え、問いかけているものは何か。ひとつでも感じずにはいられないはずだ。（編集委員 中村昭博）

編集後記

○ある企業の経営者の言葉に「夢に日付をつける」というものがある。「日付を付ける」ことによつて、その日までに自分が何をすればよいのかが具体化されいく」と語っている。夢は実現してこそ生きてくる。現実に向けた地道な努力が、結果として自身を成長させることになるということなのだ。私も「夢の現実化」に向かつて進んでいこう。今回の編集員になれたことは最大のチャンスであり、「夢の日付」までの大事な一歩になることだろう。さらに多くの人、特に若者に親しまれる情

報誌にするべく頑張りますので、よろしくお願ひいたします。（中村）
○熱波のような夏も静まり、散歩道には赤とんぼが飛び、夜には虫たちの声が聞こえてきます。自然界のあらゆるものが季節の移り変わりを私たちにそつと教えてくれているようです。
いまはもう秋。これからは月の光がひときわ鮮やかなシーズンになります。名月を眺めながら、秋の夜長のお供に『アゼリア』をこゝ読いたただけたら……。 （青木）

Azalea No. 2 4

刊行物登録番号
12-2-010
(9月号)

平成12年9月29日発行

企画・編集/アゼリア編集委員会

発行/東京都北区総務部

区民編集委員

男女共同参画室

青木伸子

〒114-8508

厚美薫

北区王子本町1-15-22

大久保美恵子

TEL 03-3908-9307

中村昭博

FAX 03-3908-1803

本田りえ

写 真/小田原淑子

協 力/株式会社 タクト・ワン

『アゼリア』に対するご意見・ご感想、また紙面でも取り上げてほしいテーマなどをお寄せください。